



修復前 before restoration



修復後 after restoration

鐘卷銅鐸

Dotaku (bell-shaped vessel bronze) excavated at Kanemaki, Wakayama

高 116 cm
弥生時代後期 1世紀～3世紀
道成寺 和歌山

H 116 cm
Yayoi period, 1 ~ 3rd century
Dojo-ji Temple, Wakayama

鐘卷銅鐸は、道成寺南方の水田から宝暦12年（1762）に出土した弥生時代の銅鐸。制作年代は1世紀後半から3世紀初頭とされ、銅鐸の最後の時期にあたるもの。豪壮な規矩をもち最大限に装飾された文様、精美な形状は他に類例が乏しい。

道成寺にとっては安珍・清姫の釣鐘へ連なる鐘として位置づけられ、寺の所在地の地名の「鐘卷」にちなんで命名し、大切に保管してきた。

修復はX線写真撮影により内部クラックを把握のうえ、全体への防錆処理、樹脂含浸・塗布による強化が行われた。